



CHALLENGING SPIRIT

～ 海洋インフラを支える技術者たち～

vol.7

雄大な桜島を望む鹿児島港は、薩摩半島や離島を結ぶ人流・物流の拠点として、またクルーズ船の寄港地としても重要な役割を担っている。こうした中、延長2.4kmの臨港道路(鴨池中央港区線)の整備が進められている。

この日現場で行われていたのは、海上部に設置される延長約1.1kmの橋梁区間の基礎となる橋脚工事。厳しい海象条件に加え、水圧や浸水といったリスクと常に向き合う海上工事では、陸上工事とは異なる特殊な技術と豊富な経験が求められる。

現場を指揮するのは、技術者歴41年の松本篤所長。

印象的だったのは、若手技術者に自ら積極的に声をかけ、丁寧に指導する姿だ。工事のマネジメントに加え、次世代への技術継承も松本所長の大きな使命である。

松本所長が若手に最も伝えたいのは、『技術』以前に『人』と向き合う姿勢だ。「工事を円滑に進めるには、発注者や協力会社、地域の方々など、多くの関係者との信頼関係が欠かせない。日頃から積極的にコミュニケーションを重ね、人として信頼してもらうこと。それが何より大切です。」

撮影/文：西村尚己(2025年11月27日撮影)

工事名：令和6年度鹿児島港(鴨池中央港区)臨港道路橋梁下部工(P1)工事

発注者：国土交通省九州地方整備局

受注者：みらい建設工業株式会社



<プロフィール>

西村尚己 /Naoki Nishimura

株式会社アフロの fotograffer(アフロスポーツ所属)。1994年、大阪大学大学院工学研究科修了後、運輸省(現国土交通省)入省。本省、北海道開発局、中部・近畿・九州地方整備局、下関市、中部国際空港㈱でインフラ整備に携わりながらアマチュアカメラマンとして活動。2016年、同省を退職し、アフロに入社。オリンピックをはじめ国内外のスポーツ撮影を中心に活動中。